

センター的機能相談で小中学校在籍の肢体不自由児のキャリア教育を支援する

～相談リーフレット「確かな未来に向かって」の作成と活用～

宮城県立拓桃支援学校

教諭 佐藤由美・安藤祥世

【取組の背景：主題設定の理由】

平成30年度の本校のセンター的機能相談173件のうち61件(35%)が就学・進路に関するもの

- ・就学の手続きやスケジュールに関する相談(未就学児)
- ・中学校以降の進路の選択肢に関する相談(小学生)
- ・高校受験や進学に関する相談(中学生)
- ・高校での学校生活や支援に関する相談(高校生)

だった。相談内容の内訳は次の通りである。

全ての相談が本人・保護者からの相談であることから、小中学校における進路選択の場面で情報不足などの困難な状況があると考えられた。小中学校においても社会参加までの長期的視点を持ってキャリア教育を実践していくことが望まれるが、肢体不自由という障害特性を踏まえた進路選択について、小中学校が十分な情報を提供することの困難さは想像に難くない。そこで、特別支援学校のキャリア教育の実践や進路情報を地域に発信し、小中学校在籍の肢体不自由児のキャリア教育を支援したいと考えた。

【取組の目的】

特別支援学校のキャリア教育の実践を生かし、センター的機能相談を活用して、小中学校在籍の肢体不自由児のキャリア教育について支援する。

【取組1 相談リーフレットの作成】

本校の実践や過去の相談から進路相談の主訴について類型化し、肢体不自由児のキャリア教育において必要な支援や情報をQ&A形式でリーフレットにまとめた。

(1) 作成の方針

- ①社会参加までの長期的視点を持つこと
- ②肢体不自由の特性に応じた内容であること
- ③小中学校の指導に生かせること
- ④教育相談の資料として活用できること

(2) リーフレットの概要

リーフレットは、本人が主体的に将来を考えるための『機会』『情報』『視点』を提供するものとした。小学生版、中学生版、教員版、資料編をそれぞれA4表裏1枚で作成し、対象や主訴に合わせて組み合わせて活用できるようにした。

【小学生版】小学校で身に付けておきたいこと・肢体不自由児の進路情報・在籍異動に関する相談等

【中学生版】受験は自分を見つめ将来を考える機会・進学先検討のためのチェックリスト等

【教員版】自立活動例「自分の障害や病気について知る・必要な支援を考える」・合理的配慮と受験時の配慮申請・引き継ぎ・仲間づくりと進路指導等

【資料編】高校の種類(自分に合った学びの場)・自立活動「入学したら伝えたいこと」テンプレート等

【取組2 相談リーフレットの活用】

(1) センター的機能相談での活用

今年度の教育相談での活用事例は中学校1件、小中学生の保護者8件である(7/31現在)。中学校の事例は、本校の教育相談で必要な支援を整理し、それを中学校と情報共有して進学先の検討を行ったものである。保護者からの相談は、小学校高学年が多く、「高校段階の学びの場にどんなものがあるか」「支援学校への在籍異動を検討するための観点について知りたい」等の内容だった。

(2) カリキュラムマネジメント(「みやぎの志教育」の推進)における活用

リーフレットの作成は、「みやぎの志教育」の視点から校内の実践を見直す契機となった。進路指導のテンプレートの共有、卒業生へのインタビュー集の作成、自立活動「先輩の話聞く会」の報告等を通し、既に実践している自立活動や総合的な学習の時間を志教育の視点から評価し、必要な指導支援を確認することができた。

【展望と課題】

インクルーシブ教育推進のもと小中学校在籍の肢体不自由児は増加が想定される。それらのニーズに対応し、各学校と連携した支援を展開したい。